

科 目 名	哲学のみちしるべ	科目分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		1	前期	2
(ふりがな) 氏 名	わ だ ひろ のぶ 和 田 寛 伸	テ ー マ		

授業概要

哲学は「諸学の学」といわれ、「あらゆる知識の最高統一の学」といわれている。もちろん哲学と一口にいっても、とりあつかうテーマや関心は研究者一人一人によって違いがある。しかしそれらの違いも要は哲学という共通土俵の上では「人間とは何か」「世界とはどういうものか」「人間はどう生きてらよいか」という命題に収約される。人類全体を絶滅させる核兵器や生物化学兵器の開発、DNA操作技術を手に入れたがための興味本位の新生物の創造などは、たしかに科学の進歩発展と呼応するものではあっても、果してこの進歩はイコール人類の幸福にコミットするものといえるであろうか。哲学の「諸学の学」としての使命は、こういった問題に真正面から取り組む「考察姿勢」を陶冶するところにあるといえる。

授業計画	前 期
第1回	概説
第2回	予備的考察
第3回	哲学の理論的学問性
第4回	自分の頭で考える
第5回	ミレトスの自然哲学Ⅰ
第6回	ミレトスの自然哲学Ⅱ
第7回	哲学の実践性
第8回	哲学の認識論性
第9回	哲学と科学Ⅰ
第10回	哲学と科学Ⅱ
第11回	哲学の思考方法
第12回	哲学と芸術Ⅰ
第13回	哲学と芸術Ⅱ
第14回	補足
第15回	試験
テキスト	高山岩男・和田寛伸 増補『新哲学年表』南窓社（Ⅰ・Ⅱ共通）
参考文献	講義の場で指示
単位認定の方法	出席・試験
内容的に関連する科目	

科目名	地理学の基礎 I	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Geography I	1	前期	2
担当 ^{ふりがな} 者名	上 ^{うえ} 村 ^{むら} 康 ^{やす} 之 ^{ゆき}	テーマ	地理学入門	
授業概要 大学で初めて「地理学」を学ぶことになる学生、あるいは高等学校で地理を受講しなかった学生に対し、まず中学校、高等学校以前の授業で学んだ地理と「地理学」は異なるということに気づき、理解してほしい。本講義では、現代の地理学が扱っている最新のテーマを題材に地理学という学問の広がりについて解説する。				
授業計画		前 期		
第1回 地理学への招待				
第2回 人口の地理学 1				
第3回 人口の地理学 2				
第4回 日本の産業 1				
第5回 日本の産業 2				
第6回 都市とは何か				
第7回 都市と農村				
第8回 人・モノの流れ（中心地と小売業）				
第9回 地理学史 1				
第10回 地理学史 2				
第11回 地図学 1（地図の基本）				
第12回 地図学 2（地形図の読み方）				
第13回 環境と地域社会 1（白神山地と屋久島）				
第14回 環境と地域社会 2（五箇山・白川郷）				
第15回 まとめ				
テキスト	高橋伸夫編『現代地理学入門』古今書院、2005年			
参考文献	帝国書院編集部編『新詳高等地図 初訂版』帝国書院			
単位認定の方法	定期試験と授業内レポート			
内容的に関連する科目	産業と地域、人間と地域、自然と地域			

科目名	家族の危機と変容 (旧社会学Ⅱ)	教養科目・選択		
		科目・分類	開講期間	単位数
英文表記	Crises and Transformations of Family	2	前期	2
担当者名	しょう し まこと 庄 司 信	テ ー マ	家族の機能と危機／変容の諸相	
授業概要 家族は誰にとっても身近であるという点で格好の社会学入門のテーマである。まず、家族は社会の「基礎集団」と見なされるが、社会に対してどのような「役割（機能）」を果たすことが期待されているのか、またどのようにして家族の「秩序」が成り立っているのかを考えてみたい。次に、昨今話題になっている様々な家族の「危機」または「変容」が、どのような経済的、政治的、文化的等々の要因の影響を受けて生じてきているのかを考察する。結局、家族のことを学ぶということは、社会全体の成り立ちや様々な動向を学ぶことでもあるのだ。				
授業計画				
前 期				
第1回	序・社会(科)学的なものの方(概念・理論)とその効用・限界			
第2回	出発点としての家族の「危機」あるいは「変容」の諸相			
第3回	社会の「基礎集団」としての家族—家族の「社会的機能」			
第4回	家族「秩序」の特性と性別役割分業			
第5回	家族と「家族以外の社会」との関係はどう概念化するか—社会の全体像の要請			
第6回	分析枠組みとしての「家族—学校—地域—経済—政治—文化—メディア」			
第7回	近代社会の原理としての「自由」「競争」「共同」「平等」			
第8回	経済のサービス化、消費社会化、情報社会化と家族			
第9回	「個人主義」の影響：自己実現、規範、欲望			
第10回	家族と学校			
第11回	少子高齢化と家族			
第12回	福祉国家再編と家族政策			
第13回	地域・伝統の衰退とインフォーマルセクターへの注目			
第14回	フェミニズムによる批判			
第15回	改めて家族とは？そして、これからの家族			
テキスト	コピーを配布します			
参考文献				
単位認定の方法	出席と試験またはレポートの総合評価			
内容的に関連する科目	情報と消費の社会(旧社会学Ⅰ)			

科目名	法学の基礎 I	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Law I	1	前期	2
ふりがな 担当者名	たけし 渡部 毅	テ ー マ	法とは何か	
授業概要 <p>われわれは、社会で共同生活をする中で、初めて完全な人間生活を営むことができるが、平穏な社会共同生活を営むためには、人間相互間の利害や対立を調整し、あるいは社会の秩序を維持するためのシステムが必要となる。「法」はこのような目的を達成するための準則となりうる社会規範のひとつである。</p> <p>本講では、そもそも「法とは何か」について、その目的や理念、実効性などの点で、道徳や慣習など他の社会規範と比較して、どのような特質を有しているのかという見地から、その異同を明らかにしていく。そして、かかる法にはどのような存在形式があるのか、あるいは、どのような効力が認められるのかなど、法律学の初学者が法的問題を理解するために必要となる基本的な法の知識を概説していく。</p>				
授業計画		前 期		
第1回 法とは何か				
第2回 社会規範としての法				
第3回 法と道徳				
第4回 法と習慣				
第5回 法と目的				
第6回 法源(1)成文法源				
第7回 法源(2)不文法源				
第8回 法の効力(1)時に関する効力				
第9回 法の効力(2)人に関する効力				
第10回 法の効力(3)場所に関する効力				
第11回 法の分類(1)				
第12回 法の分類(2)				
第13回 法の分類(3)				
第14回 法の分類(4)				
第15回 試験				
テキスト	『法律学の礎』(八千代出版・2002年)			
参考文献				
単位認定の方法	主として、試験の成績による。			
内容的に関連する科目	法学の基礎 II			

科目名	生活と政治 I	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Life and Politics I	2	前期	2
担当 ^{ふりがな} 者名	吉 ^{よし} 野 ^の 篤 ^{あつし}	テ ー マ	政治とはなにか	
授業概要 ここでは主にヨーロッパを舞台にした政治概念の変遷を、古典古代から20世紀にいたるまでフォローする。板書の量がかなり多くなると思われるので、そのつもりでがんばってノートにとってほしい。				
授業計画		前 期		
第1回 「政治」についての序論				
第2回 プラトンの考え方「国家篇」				
第3回 アリストテレスの「政治学」				
第4回 ヨーロッパ中世の政治像				
第5回 マキャベリの「君主論」				
第6回 近代の政治原理・社会契約説概説				
第7回 ロックの政治理論				
第8回 市民革命の課題と展開				
第9回 保守主義の論理				
第10回 19世紀の政治概念・社会主義の枠組み				
第11回 市民社会と大衆社会の類型				
第12回 20世紀の政治概念の概説				
第13回 マックス・ウェーバーの理解				
第14回 丸山真男の政治概念				
第15回 前期試験				
テ キ ス ト	杉本稔編著『政治の世界』北樹出版			
参 考 文 献	授業の中でその都度示す			
単 位 認 定 の 方 法	出席・試験			
内容的に関連する科目				

科目名	自然の科学 I	科目・分類	教養科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Natural Science I	1	前期	2
担当 ^{ふりがな} 者名	わた ^{なべ} 渡 ^{いさむ} 部 ^{ゆう}	テ ー マ	科学的議論の仕組み	
授業概要 人類がこれまで明らかにしてきた自然界の真の姿は、実は我々が日常生活を通じて自然に身に付けて来た常識とは相反する事も多いが、その自然界の真の姿の不思議さに感動し、また「常識の壁」を論理と実験観察によって打ち破ってきた我々人類の知的成果を知ってもらう。この授業では、「科学する」とはどう言う事なのかについて、物理学の幾つかの歴史上の、或いは現代の最先端の具体例に触れながら、時には少々数式をも用いて、「科学的議論」の方法論を理解してもらう。				
授業計画		前 期		
第1回 授業運営方針の説明				
第2回 プロローグ				
第3回 光の不思議 1 光って何?				
第4回 光の不思議 2 幾何光学				
第5回 光の不思議 3 光の速度				
第6回 光の不思議 4 電磁気の諸性質				
第7回 光の不思議 5 アインシュタインと4次元の世界				
第8回 量子の世界 1 量子論誕生				
第9回 量子の世界 2 量子電磁力学				
第10回 量子の世界 3 経路積分				
第11回 量子の世界 4 原子から素粒子の世界へ				
第12回 量子の世界 5 ゲージ原理で決まる力の法則				
第13回 量子の世界 6 素粒子の標準模型				
第14回 前期試験の傾向と対策				
第15回 試験				
テキスト	プリントを配布する			
参考文献	授業中に紹介する			
単位認定の方法	試験とレポートによる			
内容的に関連する科目	自然の科学II			

科目名	マクロ経済学	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Macroeconomics	2	前期	2
担当 者名	宮崎浩伸	テ ー マ	基本理論を学ぶ	
授業概要 <p>この授業は、1年次に履修した『ベーシック経済学』をさらに発展させた授業です。マクロ経済学は、新聞やテレビのニュースでも取り上げられる内容であり、皆さんの日常生活においてもたいへん重要な科目であるといえます。そこで、授業では、まず、一通りのマクロ経済理論を身につけることを目的としています。新しい理論を学んだら、理解度を深めるためにも、確認問題を解くことを行いたいと思います。最終的には、専門用語が理解でき、テレビや新聞等で扱われている経済ニュース・経済記事の内容が理解できる力を身につけて頂ければと思います。</p>				
授業計画		前 期		
第1回	イントロダクション	マクロ経済学について		
第2回	マクロ経済学と日本経済			
第3回	GDPについて			
第4回	消費と貯蓄			
第5回	企業の投資			
第6回	政府の支出			
第7回	総需要の経済学			
第8回	金融市場の分析			
第9回	IS-LM モデル			
第10回	IS-LM モデルを使った分析			
第11回	物価の分析			
第12回	国際IS-LM 分析			
第13回	日本のIS-LM 曲線			
第14回	試験対策			
第15回	予備日			
テ キ ス ト	家森信善『基礎からわかるマクロ経済学』（中央経済社）			
参 考 文 献	荒井一博他『はじめて学ぶ経済学』（中央経済社）			
単 位 認 定 の 方 法	出席と試験			
内 容 的 に 関 連 す る 科 目	ミクロ経済学			

科目名	経済地理学 I	科目・分類		
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Industrial Geography I	3	前期	2
担当者名	上村 康之	テーマ	国土開発と第2次産業の地域構造	
授業概要 <p>主に国土開発計画の歴史と内容をふまえながら、産業の集積と地域の発展・衰退について解説し、産業集積の地域構造を学ぶ。最初に、多くの事象を研究するにあたり基礎となる統計の見方を習得したのち、国土開発と工業集積の系譜と現状を中心に講義する。その他、東北地方の風土に根ざした地場産業（伝統産業）、鉱業・エネルギー地理学について概説する。</p>				
授業計画				
前 期				
第1回 経済地理学への招待				
第2回 日本、東北地方の産業別人口の推移				
第3回 産業関係の統計の見方				
第4回 工業地理学 総論				
第5回 日本の国土開発の系譜と特徴1				
第6回 日本の国土開発の系譜と特徴2				
第7回 日本の国土開発の系譜と特徴3				
第8回 日本の工業地域1 京浜工業地帯				
第9回 日本の工業地域2 北上川流域				
第10回 日本の工業地域3 中京工業地帯				
第11回 秋田県の製造業とTDK				
第12回 地場産業 総論				
第13回 秋田県の地場産業 川連漆器、酒造業				
第14回 鉱業エネルギー地理学				
第15回 まとめ				
テキスト	竹内淳彦『日本経済地理読本』東洋経済新報社			
参考文献	帝国書院編集部編『新詳高等地図 初訂版』帝国書院			
単位認定の方法	定期試験と授業内レポート			
内容的に関連する科目	地理学の基礎、人間と地域、自然と地域、地域社会論Ⅱ			

科目名	地方財政 I	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		3	前期	2
担当者名	塚 谷 文 武	テ ー マ		
授業概要 後日配布します。				
授業計画		前 期		
第1回				
第2回				
第3回				
第4回				
第5回				
第6回				
第7回				
第8回				
第9回				
第10回				
第11回				
第12回				
第13回				
第14回				
第15回				
テキスト				
参考文献				
単位認定の方法				
内容的に関連する科目				

科目名	日本経済の歩み I	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Japanese Economic History I	2	前期	2
担当者名	鈴木 達郎	テーマ	両大戦間期と戦後改革期の日本経済	
授業概要 本講義の課題は、両大戦間期と戦後改革期を対象として、日本経済の歴史的特質を明らかにすることにある。戦後改革は、戦前型経済システムの解体をもたらしたと同時に、戦後型経済システム成立の前提ともなった結節点である。「日本経済論」との関係も考慮して、まず「戦後改革期」を検討したい。次いで、第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけての「両大戦間期」を検討し、なぜ日本は「軍事大国」への道を歩むことになったのかを考察する。				
授業計画		前期		
第1回	講義案内ー近・現代日本経済の見取り図			
第2回	占領政策			
第3回	財閥解体			
第4回	労働改革と農地改革			
第5回	傾斜生産方式			
第6回	ドッジラインと朝鮮戦争特需			
第7回	小括ー戦後改革期の日本経済			
第8回	1910年代の日本経済ー大戦景気			
第9回	1920年代の日本経済ー慢性不況			
第10回	井上財政と高橋財政			
第11回	日中戦争期の統制経済			
第12回	アジア・太平洋戦争期の統制経済			
第13回	小括ー両大戦間期の日本経済			
第14回	総括ー戦前と戦後の連続と断絶			
第15回	定期試験			
テキスト	テキストは使用しないが、講義のなかで資料を配付する。			
参考文献	講義の中で紹介する。			
単位認定の方法	試験の結果に出席点を加算して評価する。			
内容的に関連する科目	日本経済の動きとしくみ I、欧米の産業と交易の歴史 I・II			

科目名	国際経済学 I	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	International Economics I	2	前期	2
担当者名	本田 雅子	テーマ	国際貿易に関する基礎的な経済理論の学習	

授業概要

今日私たちの生活は外国からの輸入品が欠かせない。しかし輸入製品の大量の流入は私たちの消費生活を豊かにする反面、競争する国内産業に打撃を与える。トータルに考えた場合、国際貿易は果たして私たちの国に利益をもたらすものであるといえるのだろうか。あるとしてもそれは国内の諸産業にどのような影響を与えるのだろうか。本講義ではこのような問題を考えるため、国際貿易に関する理論的枠組を学習する。本講義は2年次対象授業であるので、かなり平易にひとつひとつのモデルを詳しく解説する。

授業計画	前 期
第1回	国際経済論の課題と手法
第2回	リカード・モデル：概説
第3回	リカード・モデル：生産フロンティア
第4回	リカード・モデル：機会費用
第5回	リカード・モデル：比較優位の概念
第6回	リカード・モデル：特化と貿易利益
第7回	リカード・モデル：意義と限界
第8回	多数財リカード・モデル：概説
第9回	多数財リカード・モデル：モデルの構造
第10回	多数財リカード・モデル：貿易パターンの決定
第11回	H. O. S. モデル：概説
第12回	H. O. S. モデル：リプチンスキー効果
第13回	H. O. S. モデル：ストルパー＝サミュエルソン効果
第14回	H. O. S. モデル：要素価格均等化定理
第15回	試験
テキスト	指定しない
参考文献	授業の中で適宜指示する。
単位認定の方法	基本的に、試験＋出席＋授業参加態度によって評価する
内容的に関連する科目	ミクロ経済学、国際金融論Ⅰ・Ⅱ

科目名	国際金融論 I	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	International Finance I	3	前期	2
担当者名	西尾圭一郎	テーマ	外国為替と国際収支	
授業概要 <p>変動相場制に移行して以来、国際的な金融取引が活発化し、グローバルな資金移動が増加するようになりました。その結果、貿易額の何十倍もの規模の外国為替取引が生じているという金融肥大化現象がみられるようになってきました。</p> <p>このような現象は我々の生活にどのような影響をもたらすのでしょうか？国際金融取引が国内の経済に影響を与える経路である外国為替取引や国際収支などを理解することで、我々を取り巻く国際金融について基礎的な知識を学びます。</p>				
授業計画		前期		
第1回		イントロダクション		
第2回		国内金融と国際金融		
第3回		国際決済と外国為替取引		
第4回		国際決済と銀行		
第5回		為替のリスクと資金調整		
第6回		外国為替取引と外国為替市場		
第7回		外国為替市場と為替相場		
第8回		先物取引、オプション取引		
第9回		国際収支		
第10回		国際収支と国内経済		
第11回		国際収支と為替相場		
第12回		国際通貨		
第13回		戦後の国際通貨制度		
第14回		さまざまな外国為替制度		
第15回		まとめ		
テキスト	川本明人『基礎からわかる外国為替』中央経済社、2004年。			
参考文献	随時指示します。			
単位認定の方法	期末試験を中心に、出席等を考慮して成績をつけます。			
内容的に関連する科目	現代ファイナンス論、国際経済学			

科目名	外国経済論 I	科目・分類																																		
		開講年次	開講期間	単位数																																
英文表記	Study of Foreign Economies I	3	前期	2																																
担当者名	本田 雅子	テーマ	欧州統合																																	
授業概要 <p>2002年1月よりEU諸国の通貨がすべてユーロに置き換えられ、EUは単一通貨の創設という偉業を成し遂げた。ユーロは1999年の導入時から2年間、ドルに対して下落を続けていたが、2001年以降はその価値が安定してきており、ドルへのオールタナティブな通貨としての一定の地位を確立しつつある。また、EU諸国は90年代後半、労働市場の構造改革に力を入れており、90年代末から失業率や就業率で表される労働市場のパフォーマンスの大幅な改善を見せている。さらに、EUは中・東欧諸国10カ国の2004年EU加盟を決定し、21世紀の世界において再び壮大な実験を行おうとしている。</p> <p>このように欧州統合は近年、大きな注目を集めているが、欧州統合には欧州連合（EU）の前身である欧州（経済）共同体（EEC）から数えても50年近い長い歴史があり、今日に至るまで順調に単線的に統合が進んできたわけではない。欧州統合は大きく前進することもあったが、行き詰まることもあった。また、欧州統合は通貨統合に集約されるものではない。EU加盟諸国は通貨だけではなく、市場統合、社会的な結束、共通通商政策など様々な分野での統合を進めている。</p> <p>本講義では、欧州統合の概念、思想、および歴史的発展をおさえた上で、主に1960年代までの実際の欧州共同体の機構とその展開を学び、欧州統合という政治経済上重要な問題を理解するための基礎を身につける。</p>																																				
授業計画 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>前</th> <th>期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>第1回</td><td>欧州統合とは何か(1)</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>欧州統合とは何か(2)</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>欧州統合とは何か(3)</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>欧州統合史(1)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>欧州統合史(2)</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>欧州統合史(3)</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>欧州統合史(4)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>欧州統合史(5)</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>欧州共同体の機関(1)</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>欧州共同体の機関(2)</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>欧州共同体の機関(3)</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>欧州経済統合(1)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>欧州経済統合(2)</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>欧州経済統合(3)</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>試験</td></tr> </tbody> </table>					前	期	第1回	欧州統合とは何か(1)	第2回	欧州統合とは何か(2)	第3回	欧州統合とは何か(3)	第4回	欧州統合史(1)	第5回	欧州統合史(2)	第6回	欧州統合史(3)	第7回	欧州統合史(4)	第8回	欧州統合史(5)	第9回	欧州共同体の機関(1)	第10回	欧州共同体の機関(2)	第11回	欧州共同体の機関(3)	第12回	欧州経済統合(1)	第13回	欧州経済統合(2)	第14回	欧州経済統合(3)	第15回	試験
前	期																																			
第1回	欧州統合とは何か(1)																																			
第2回	欧州統合とは何か(2)																																			
第3回	欧州統合とは何か(3)																																			
第4回	欧州統合史(1)																																			
第5回	欧州統合史(2)																																			
第6回	欧州統合史(3)																																			
第7回	欧州統合史(4)																																			
第8回	欧州統合史(5)																																			
第9回	欧州共同体の機関(1)																																			
第10回	欧州共同体の機関(2)																																			
第11回	欧州共同体の機関(3)																																			
第12回	欧州経済統合(1)																																			
第13回	欧州経済統合(2)																																			
第14回	欧州経済統合(3)																																			
第15回	試験																																			
テキスト	田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済（新版）』、有斐閣、2006年。																																			
参考文献																																				
単位認定の方法	授業+試験+出席から総合的に評価する																																			
内容的に関連する科目	国際経済学 I・II																																			

科目名	楽しい海外旅行をするために	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	The Way You Can Travel Comfortably	2	前期	2
担当 者名	堀川 静夫	テマ	日本はどう思われているのか	
授業概要 世界で一番日本を好きな人々は恐らくインドネシア人であろう。何故であろうか。フランスには相撲が好きな人々が多いが一体相撲のどこがよいのであろうか。お尻の eroticism という説がある。ふつうの中国の人々が本当に日本がそんなに嫌いなのであろうか等々。楽しく海外旅行をするためには日本あるいは日本人がどのように思われているかを知らなければいけない。世界数十ヶ国を見てきた経験を基に文化論的視点から独自の見解を示しながら授業を展開させていく。				
授業計画		前 期		
第1回	Introduction			
第2回	〃			
第3回	アジアの人々の日本観			
第4回	〃			
第5回	〃			
第6回	〃			
第7回	ヨーロッパの人々の日本観			
第8回	〃			
第9回	〃			
第10回	〃			
第11回	〃			
第12回	楽しく海外旅行をするためには			
第13回	〃			
第14回	Debate			
第15回	〃			
テキスト	特になし			
参考文献	授業中に指示する			
単位認定の方法	出席と試験を重視する			
内容的に関連する科目	ヨーロッパ地域論			

科目名	生産管理Ⅰ	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Production ManagementⅠ	3・4	前期	2
担当 ^{ふりがな} 者名	阿 ^あ 部 ^べ 時 ^{とき} 男 ^お	テ ー マ	現代の生産管理、科学的な管理技法、 ジャスト・イン・タイム	
授業概要 <p>生産管理を広義に定義するならば、“財貨の生産に関与する諸種の生産力の総合的調整によって企業全体としての生産力を最高度に発揮せしめる”(生産管理便覧、丸善)である。すなわち、物的ならびに人的生産力を合理的に組み合わせることによって経営目的達成のために諸活動を組織的・科学的に機能させ、高い生産能率をあげることである。そのためには、まず、設備・工具・動力の機械化そして管理面の情報化と人間工学的な合理化を図り、また、一方で労働力の能率的利用のための技能の養成と能力の開発を促進することである。</p> <p>現代の生産管理は、もの作りを側面から支援する役割から部材の調達から、生産、そして、流通にいたる一連の流れの中で機能することが求められる。すなわち、生産の管理から広く製造企業の管理の観点に生産を見つめて行かなければならない。その意味で、インダストリアル・エンジニアの知識が不可欠である。本講義では生産管理をI E (インダストリアル・エンジニア) の観点に重点を置き学習する。そこで取り扱う内容は出来るだけ現代の製造企業の管理に欠かすことの出来ない実践的知識についてビデオ教材を用いて出来るだけやさしく解説する。</p>				
授業計画		前 期		
第1回 製造企業と生産管理1				
第2回 製造企業と生産管理2				
第3回 意識改革と5S・3定1				
第4回 意識改革と5S・3定2				
第5回 新作業研究1				
第6回 新作業研究2				
第7回 新作業研究3				
第8回 流れ作業と1個流し				
第9回 流れ作業と1個流し				
第10回 経済性分析1				
第11回 経済性分析2				
第12回 多工程持ちと小人化1				
第13回 多工程持ちと小人化2				
第14回 平準化と標準作業1				
第15回 平準化と標準作業2				
テキスト	田中一成著「図解生産管理 基本の基本からSCM, ERPまで」日本実業出版社			
参考文献	『生産管理の基礎テキスト』、日本能率協会マネジメントセンター 桑田秀夫著『生産管理概論』日刊工業新聞社			
単位認定の方法	出席、中間・期末試験、宿題、各25%、出席率60%以下は認定対象外			
内容的に関連する科目	生産管理Ⅱ、経営管理、経営学「生産管理Ⅱ」を履修すること、ビデオ教材の利用、工場見学の奨め			

科目名	MIS論（経営の情報）Ⅰ	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Information Management System Ⅰ	2	前期	2
担当者名	阿部 時 男	テ ー マ	経営情報システムとデータベース	

授業概要

今日経営意思決定や日々の事務処理領域にコンピュータを活用することは欠かすことの出来ないものとなっている。しかし、どのような意思決定や事務処理であってもコンピュータを利用して行うことができるのではない。ある業務がコンピュータを使って行うことができるためには、その業務処理手順が「プログラム可能」でなければならない。

では「プログラム可能」にするにはどうすれば良いのか。その順序は、現状を分析し、その結果から問題点を明確に認識し、改善案を作成し、機械化の概要を作りそれを具体的にコンピュータ処理するためのコード体系、出力・入力帳票の設計そしてプロセス流れ図を作りプログラムを設計図に基づいて作成するのである。

本講座は、以上の流れを踏まえて、パーソナルコンピュータを用いてデータベース言語（MS Access）による販売事務システムの構築を実習中心に行ってゆく。ここで学んだ生きた知識をもとにMISⅡでは、販売業務をたたき台として経営情報にまつわる最新の話（ビデオ教材を取り入れ）について解り易く解説する。

コンピュータに関する技能と知識が必須となりつつある今日の情報社会において本講座は諸君の血となり肉となるものと確信している。

授業計画	前 期	
第1回	情報管理概説	
第2回	経営と事務処理	
第3回	事務処理とコンピュータ1	
第4回	事務処理とコンピュータ2	
第5回	構造化事務分析（DFD図）について	
第6回	リレーショナルデータベース入門	
第7回	事務処理とデータベース（販売管理）	
第8回	設計実習1（顧客、商品テーブルの設計）	
第9回	設計実習2（売上テーブルの設計）	
第10回	設計実習3（売上入力クエリーの設計）	
第11回	設計実習4（売上入力フォームの設計）	
第12回	設計実習5（限度額クエリーの設計）	
第13回	設計実習6（売上納品クエリーの設計）	
第14回	設計実習7（売上納品書の設計）	
第15回	設計実習8（売上週報レポートの設計）	
テキスト	『かんたん図解 Access 2000 活用編』町田奈美著 技術評論社	
参考文献	『かんたん図解 Access 2002 [基本操作] Windows XP+Office XP 対応』町田奈美著 技術評論社、 『販売情報システム』石橋徳彌 日科技連、『情報システムの分析・設計』国友義久 日科技連、その他 Microsoft Access 2003 関連図書	
単位認定の方法	出席、中間試験、実習課題、課題提出率60%以下は単位認定しない。	
内容的に関連する科目	経営管理	

科目名	コミュニケーション論 I	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Theory of Communication I	3	前期	2
担当 ^{ふりがな} 者名	庄 ^{しょう} 司 ^し 信 ^{まこと}	テ ー マ	コミュニケーションを通じての自己形成	
授業概要 私たちの自己（自我、アイデンティティ、パーソナリティ、いくつかの呼び方があるが、この講義ではあまり厳密な区別は行わない）はほとんど無自覚的に行われている日々のコミュニケーションを通じて形成され、維持され、変容していく。この講義はその過程を原理的に掘り下げて理解することで、例えばいじめのような社会現象を考える視点を提供するとともに、皆さん自身の今の「自己」の反省にも役立てばと思っている。講義は拙稿をテキストに進める予定なので、なかなか下記の授業計画どおりにはいかないが、そこに挙げてある項目には極力言及するつもりである。				
授業計画		前 期		
第1回	社会・文化・自己を生成するコミュニケーション			
第2回	「自己」意識と「我々」意識とコミュニケーション			
第3回	コミュニケーションの構成要素を考える			
第4回	コミュニケーションの「出来事」的性格			
第5回	「鏡としての他者」について			
第6回	私（自己）の可能性を引き出してくれる他者			
第7回	私（自己）を悩ませる他者			
第8回	相互承認と自律と自尊心			
第9回	ハーバーマスのコミュニケーション行為論			
第10回	差別化としてのコミュニケーション			
第11回	コミュニケーションの制度化・儀礼化			
第12回	コミュニケーションの演技化			
第13回	日本的・西歐的コミュニケーション			
第14回	社会の複雑化とコミュニケーション			
第15回	自由闊達なコミュニケーションと自己を変える可能性			
テ キ ス ト	拙稿のコピーを配布します			
参 考 文 献				
単 位 認 定 の 方 法	出席とレポートまたは試験の総合評価			
内容的に関連する科目	家族の危機と変容、情報と消費の社会			

科目名	経営学Ⅰ	科目・分類	専門科目・実践マネジメント学科必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	BUSINESS ADMINISTRATIONⅠ	1	前期	2
担当者名	あ と べ 部 ま な ぶ 学 跡	テ ー マ	現代社会と経営	

授業概要

経営学Ⅰでは、初めて経営学を学ぶ学生諸君に、経営学とは何か。それは如何なる領域を研究対象とし、どのような問題を究明するのか、といった基本的な事柄を理解することを主眼としています。この授業には「現代社会と経営」というテーマが与えられているように、すぐれて企業社会である現代社会を、多様な問題領域をはらむ企業経営という側面から究明していきたいと考えています。講義では全15回を初學者の皆さんに可能な限り理解しやすい内容で進めていきます。また皆さんの興味や関心をより強く持つていただくために各講義では身近な企業と経営に関するニュースを新聞・ビデオ等から適宜取り上げ、一緒に考えていきたいと思っています（受講者の理解の度合いや希望によってはシラバスの変更も考えられますのでこの点予めご理解下さい）。

授業計画	前 期
第1回	経営学をなぜ学ぶのか。現代経営の諸課題と学ぶことそれ自体のガイダンスとして
第2回	経営学の成立（その研究対象、企業と経営の峻別、経営学と経済学の峻別）
第3回	企業形態の展開Ⅰ（企業形態の種類とその必然性）
第4回	企業形態の展開Ⅱ（株式会社の発生とその意義）
第5回	企業形態の展開Ⅲ（公企業・協同組合・第三セクターと株式会社）
第6回	経営者の社会的責任Ⅰ（いわゆる資本の文明化あるいは人格の陶冶と経営理念の発展）
第7回	経営者の社会的責任Ⅱ（資本の社会性と経営者の責任）
第8回	経営者の社会的責任Ⅲ（経営者の具体例とその意義）
第9回	所有と経営の分離Ⅰ（その歴史的形成と意義）
第10回	所有と経営の分離Ⅱ（経営者支配についての学説）
第11回	所有と経営の分離Ⅲ（日本とアメリカの経営者支配について）
第12回	現代資本主義と労働者の経営参加（経営民主化とLBO・ESOPなどについて）
第13回	日本的経営Ⅰ（一般的理解の整理）
第14回	日本的経営Ⅱ（その成立と特徴）
第15回	日本的経営Ⅲ（その適用と適応）
テキスト	適宜、指示あるいは配布します。
参考文献	鶴田満彦編著『現代経済システム論』日本評論社、2005年。企業研究所編『コーポレート・ガバナンスと企業価値』中央大学出版部、2007年。
単位認定の方法	出席・レポート・試験等、総合的に判断します。
内容的に関連する科目	経営管理論等、経営学関連科目

科目名	景気変動論 I	科目・分類		
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Business Cycles I	3	前期	2
担当 ^{ふりがな} 者名	栗 ^{くり} 田 ^た 康 ^{やす} 之 ^し	テ	マ	景気循環論の基礎
授業概要 <p>この授業では、景気循環（景気変動）についての基礎的な知識を身につけ、景気の現状を判断する能力を養うことを目的とする。そのために、まず、景気循環に関する基本的な経済用語や景気指標の見方をわかりやすく解説する。そのうえで、景気循環の種類や景気循環の基本的仕組み等について説明してゆく。なお、随時、各回のテーマに関連した資料を配付するとともに、各時点での政府の景気指標等により景気の動向を解説して行く。</p>				
授業計画				
前 期				
第1回	1. 景気循環とは何か (1) 「景気循環」の意味			
第2回	(2) 景気循環の局面および山・谷			
第3回	(3) 景気循環の周期			
第4回	(4) 景気指標－その1－			
第5回	(5) 景気指標－その2－			
第6回	2. 景気循環の諸形態 (1) キチン循環			
第7回	(2) ジュグラー循環			
第8回	(3) コンドラチェフ循環			
第9回	3. 景気循環の基本的原因 (1) 購買と販売の分離			
第10回	(2) 利潤追求と資本蓄積			
第11回	(3) 反転の諸要因			
第12回	4. 景気循環の諸学説 (1) サミュエルソン＝ヒックス型モデル			
第13回	(2) ハロッド＝ドーマー型モデル			
第14回	5. 戦後日本の成長と景気 (1) 高度成長から平成景気まで			
第15回	(2) バブル崩壊から今日まで			
テキスト	使用しない、資料を配付。			
参考文献	授業の中で紹介する。			
単位認定の方法	出席と試験による。			
内容的に関連する科目	日本経済論			

科目名	法 哲 学	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Legal Philosophy	3	通 年	4
(ふりがな) 氏 名	わ だ ひろ のぶ 和 田 寛 伸	テ ー マ		
授業概要 <p>“正の追究”すなわち「正しい」とは何か、ということへの疑問は古代ギリシア以来の哲学的命題である。正しさには自然的に正しいもの (physei dikaion) と人為的に定立された正しさ (momo dikaion) とがあり、後者に哲学的思考の中心をおいた法哲学は文字どおりギリシア以来数千年の歴史を有する伝統的学問ということになる。実際、法哲学はそれが教会的自然法であれ、理性法であれ常に“正の追究”をキーコンセプトとして「法とは何か」という基本的問いかけに解答を与えるべく数千年にわたって知的努力を重ねてきた。法哲学の伝統的論争課題である法実証主義と自然法論の議論や、正義にかかわる規範的議論と相対主義との論争、また悪法や法の妥当性根拠の問題は法を学ぶ者にとっては常に古くて新しい問題である。そこで本講義では上記の伝統的問題意識の上にならって、以下の内容を準備している。</p>				
授 業 計 画		前 期	後 期	
第1回		法哲学の予備的考察 (概説)	第16回 悪法の意味するところ (悪法の分類)	
第2回		法哲学という学問の様々な定義	第17回 悪法論と法哲学	
第3回		科学としての法哲学と哲学としての法哲学	第18回 悪法論と法理念論	
第4回		法哲学の課題・研究対象・アプローチのしかた	第19回 悪法論の概念的解析	
第5回		自然法論 (概説)	第20回 正義論について (概説)	
第6回		伝統的自然法論	第21回 法と正義の関係	
第7回		現代における自然法論	第22回 「適法的正義」と「形式的正義」	
第8回		自然法論の問題点 (極端自然法論)	第23回 「実質的正義」の分析	
第9回		法実証主義 (概説)	第24回 法的正義と合法性	
第10回		19世紀以降の法実証主義の理論的裏付け	第25回 法の自立性と柔軟性	
第11回		法実証主義の根本主張	第26回 法的正義の限界	
第12回		近代法実証主義の「法の定義」	第27回 倫理にかかわる価値相対主義	
第13回		今日における法実証主義 vs 自然法論	第28回 メタ倫理学の類型と正義論	
第14回		形式的法実証主義の行き詰まりと自然法論の復権	第29回 法哲学にかかわる価値相対主義	
第15回		前期試験	第30回 後期試験	
テ キ ス ト	特に一冊を指定しないが、以下の参考書から関係項目を紹介。2年生次使用の『法思想史』は必ず持参のこと			
参 考 文 献	和田寛伸『自由社会の正義考』南窓社(特に後期「正義論」で概括的に使用)、碧海純一・新版『法哲学概論』(全訂二版)、加藤新平『法哲学概論』、長尾龍一『法哲学入門』、大橋・三島・田中編『法哲学綱要』他			
単位認定の方法	出席・前期試験・後期試験			
内容的に関連する科目				

科目名	法社会学	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Sociology of Law	3	通年	4
(ふりがな) 氏名	せ た がわ まさ ひろ 瀬田川 昌 裕	テ ー マ	社会現象としての法	
授業概要 法社会学とは、法を1つの社会現象としてとらえ、その法則を追求する学問である。従って現実にも動いている法の姿を経験科学的に観察することによって、社会の中の法を全体的・総合的にとらえることを目標とする。				
授業計画 前期		後期		
第1回 法社会学と法解釈学		第16回 伝統的社会の法文化(1)		
第2回 日本人の法意識(1)		第17回 〃 〃 (2)		
第3回 〃 〃 (2)		第18回 〃 〃 (3)		
第4回 〃 〃 (3)		第19回 紛争解決の諸制度(1)		
第5回 〃 〃 (4)		第20回 〃 〃 (2)		
第6回 自殺という社会現象(1)		第21回 〃 〃 (3)		
第7回 〃 〃 (2)		第22回 法律専門職の研究(1)		
第8回 社会制御理論と法(1)		第23回 〃 〃 (2)		
第9回 〃 〃 (2)		第24回 ジェンダーと家族と法(1)		
第10回 〃 〃 (3)		第25回 〃 〃 (2)		
第11回 治安と犯罪の法社会学(1)		第26回 企業文化と法(1)		
第12回 〃 〃 (2)		第27回 〃 〃 (2)		
第13回 〃 〃 (3)		第28回 格差社会と法制度(1)		
第14回 〃 〃 (4)		第29回 〃 〃 (2)		
第15回 前期試験		第30回		
テキスト	和田仁孝編『法社会学』法律文化社			
参考文献				
単位認定の方法	出席・前期試験・後期試験			
内容的に関連する科目	西洋法制史、法哲学			

科 目 名	国 際 法	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	International Law	2	通 年	4
(ふりがな) 氏 名	よし だ たく や 吉 田 拓 也	テ ー マ	国際法	

授業概要

国際社会を基盤とする法である国際法とは何か？この問題を常に念頭におきながら、国際法の基本的問題を講義する。なお、一年生配当の「国際政治のあゆみ（旧「政治地理学」）」を履修していることを前提として講義する。また、次年度以降は、「世界の政治」（2008年度以降開講予定）の履修も前提とする。

授 業 計 画		前 期	後 期
第1回	イントロダクション (国際法学の概念と検討対象)		第16回 紛争の平和的解決① (紛争の平和的解決義務解決手続の分類)
第2回	国際社会と国際法① (主権国家体制主権概念)		第17回 紛争の平和的解決② (国際裁判国際司法裁判所勧告的意見)
第3回	国際社会と国際法② (共存の国際法協力の国際法)		第18回 戦争と国際法① (武力行使禁止 自衛権集団的安全保障体制)
第4回	国家と国際法① (国家の成立 政府変動国家承継)		第19回 国際人道法と軍備管理 (武力紛争における原則 核兵器不拡散条約)
第5回	国家と国際法② (国家の基本権 国家管轄権の概念と機能)		第20回 陸の国際法 (領域の法的性格領域権原日本の領土問題)
第6回	国家と国際法③ (国家機関主権免除)		第21回 海の国際法① (自由海論と閉鎖海論 海洋二分論)
第7回	国際法上の主体 (国際組織と個人の法主体性)		第22回 海の国際法② (領海排他的経済水域大陸棚 深海底)
第8回	国際法の存在形態 (国際法の法源条約慣習国際法法の一般原則)		第23回 空と宇宙の国際法 (領空主権国際民間航空宇宙の法的地位)
第9回	国際慣習法 (国際慣行法的確信インスタント慣習法論)		第24回 人と国際法① (国籍外国人の法的地位)
第10回	条約法① (条約締結手続全権委任状署名批准)		第25回 人と国際法② (国際人権法国際人権の履行確保難民)
第11回	条約法② (留保効力解釈 条約の終了および運用停止)		第26回 国際刑事法① (国際犯罪の類型普遍的管轄権国際刑事裁判所)
第12回	国際法と国内法 (一元論と二元論 国際法と国内法の相互作用)		第27回 国際刑事法② (犯罪人引渡政治犯)
第13回	国家責任① (国家責任の構成要件 国際違法行為と国の行為)		第28回 国際環境法① (ストックホルム人間環境会議リオ・サミット)
第14回	国家責任② (違法性阻却自由国際責任の追及外交的保護権)		第29回 国際環境法② (気候変動枠組条約京都議定書予防アプローチ)
第15回	試験		第30回 試験

テ キ ス ト	中谷和弘など著『国際法』（有斐閣アルマ、2006年） 大沼保昭など編『国際条約集2007年度版』（有斐閣）
参 考 文 献	初回の講義の中で紹介します。
単 位 認 定 の 方 法	前期後期のテスト、講義の際の課題および出席
内 容 的 に 関 連 する 科 目	「国際政治のあゆみ」（旧「政治地理学」）、「世界の政治」、「国際関係史」

科目名	民法の入門	科目分類	専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Introduction to Civil Law	1	通年	4
(ふりがな) 氏名	ふる た しげ あき 古 田 重 明	テーマ		
授業概要 <p>民法は個人の自由と私有財産権を保障した資本主義体制の下における法体系の一つです。政治が経済を動かし、経済が政治に反映し、法を作る要因となるように、政治と経済と法は密接な関係にあります。民法典は総則・物権・債権・親族・相続の5編から成っていますが、総則は主として物権法債権法（これらを財産法といいます）に共通した原則を規定しています。民法を学習する上でかかすことのできない部分です。民法体系の基礎であるとともに他の諸法を学習する上で基礎ともなります。家を建てる際の土台に相当するともいえます。</p> <p>さあ、しっかり頑張っていこう。</p>				
授業計画 前期		後期		
第1回 民法の意義、史的素描		第16回 瑕疵ある意思表示		
第2回 民法の存在形式		第17回 意思表示の到達と受領能力		
第3回 民法の基本原則		第18回 代理制度の意義、性質		
第4回 民法の効力		第19回 代理権の発生原因と範囲		
第5回 権利の主体である人について		第20回 代理行為		
第6回 制限能力者の保護		第21回 無権代理、表見代理		
第7回 住所		第22回 意思表示の無効、取消		
第8回 不在者と失踪宣告		第23回 条件、期限		
第9回 法人の意義、種類		第24回 期間の計算		
第10回 法人の設立、法人の能力		第25回 時効制度の意義、種類		
第11回 法人の機関、法人の消滅		第26回 時効の援用、放棄		
第12回 権利義務の客体である物について		第27回 時効の中断		
第13回 法律行為の意義、解釈、目的		第28回 取得時効の意義、要件、効果		
第14回 意思表示、意思と表示の不一致		第29回 消滅時効の意義、要件、効果		
第15回 前期試験		第30回 後期試験		
テキスト	講義の初め示します。			
参考文献	我妻学、有泉亭『民法 I 総則・物権法』一粒社 佐藤隆夫、古田重明他『民法要説』勁草書房			
単位認定の方法	テスト・出席			
内容的に関連する科目				

科目名	物 権 法	科目分類	専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Law of Property	2	通 年	4
(ふりがな) 氏 名	くろ さわ ひで あき 黒 澤 英 明	テ ー マ	物の支配と法	
授業概要 <p>私たちは、さまざまな物を活用したり、人と交渉してさまざまなサービスを受けたりして自分の生活を成り立たせています。そして、これを法的な側面から支えるのが、民法の中の財産法です。人との交渉などを規律するのが債権法であるのに対し、物権法は、物の活用を規律します。</p> <p>本講義では、この物権法を取り上げ、物を活用するために用意されている権利にはどういったものがあるのか、他人との間で物の支配をめぐる争いとなったときにどのように解決されていくのか、物を担保として他人から融資を得る制度などについてみていきます。</p>				
授業計画 前 期		後 期		
第1回 ガイダンス		第16回	地上権、永小作権	
第2回 物権の意義、性質、客体		第17回	地役権、入会権	
第3回 物権法定主義、物権の種類及び分類、法源		第18回	担保物権総論	
第4回 物権変動の基本原則 - 意思主義		第19回	留置権	
第5回 物権的請求権		第20回	先取特権	
第6回 登記を必要とする第三者の範囲		第21回	質権	
第7回 契約の取消と登記		第22回	動産質、不動産質、権利質	
第8回 相続、時効と登記		第23回	抵当権の意義、性質、設定	
第9回 中間省略登記		第24回	抵当権の効力	
第10回 動産物権変動		第25回	短期賃貸借の保護	
第11回 即時取得		第26回	法定地上権	
第12回 占有権		第27回	抵当権の処分	
第13回 所有権		第28回	特殊な抵当（共同抵当、根抵当）	
第14回 共有		第29回	変則的担保（譲渡担保、仮登記担保など）	
第15回 前期試験		第30回	後期試験	
テ キ ス ト	小泉健『物権法概説』（酒井書店）			
参 考 文 献	星野英一ほか編『民法判例百選 I 総則・物権〔第5版〕』（有斐閣）			
単位認定の方法	出席・試験			
内容的に関連する科目	民法の入門、民法の入門の発展講義、債権総論、債権各論			

科目名	債権総論	科目分類	専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Civil Law (Obligation in general)	2	通年	4
(ふりがな) 氏名	さいだ おさむ 齋田 統	テーマ		
授業概要 <p>本講は、債権総論についての基礎的な理解を深めることを目的とします。債権総論は、債権の目的、債権の効力、多数当事者の債権関係、債権譲渡、債権の消滅に大きく分かれますが、各項目について、具体的な事例も見ながら、理解を深めていきたいと思えます。</p>				
授業計画 前期		後期		
第1回 債権の意義		第16回 連帯債務の意義		
第2回 債権の目的		第17回 連帯債務の対外的効力		
第3回 特定物債権・種類債権		第18回 連帯債務者の一人に生じた事由の効力		
第4回 金銭債権		第19回 連帯債務者間の求償関係		
第5回 選択債権		第20回 保証の意義		
第6回 債務不履行		第21回 保証債務		
第7回 履行の請求		第22回 特殊形態の保証		
第8回 損害賠償請求		第23回 債権譲渡		
第9回 債務不履行		第24回 債務引受		
第10回 受領遅滞		第25回 弁済の意義		
第11回 債権者代位権		第26回 代物弁済		
第12回 債権者取消権		第27回 相殺の意義		
第13回 分割債権関係		第28回 相殺の効果・更改		
第14回 不可分債権関係		第29回 免除・混同		
第15回 前期試験		第30回 後期試験		
テキスト	柳澤秀吉・采女博文編著『債権法総論』（嵯峨野書院）			
参考文献				
単位認定の方法	試験と出席状況等で評価			
内容的に関連する科目				

科目名	債権各論	科目分類	専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Civil Law (Obligation in particulars)	3	通年	4
(ふりがな) 氏名	さいだ おさむ 齋田 統	テーマ		
授業概要 <p>本講は、債権各論についての基礎的な理解を深めることを目的とします。債権各論は、契約の成立、契約の効力、契約の解除、売買、賃貸借、請負、事務管理、不当利得、不法行為等を対象としますが、各項目について、具体的な事例も見ながら、理解を深めていきたいと思ひます。</p>				
授業計画 前期		後期		
第1回 契約の意義		第16回 使用貸借		
第2回 契約の成立		第17回 賃貸借		
第3回 懸賞広告		第18回 借地		
第4回 契約の効力(同時履行の抗弁権)		第19回 借家		
第5回 契約の効力(危険負担)		第20回 雇用		
第6回 契約の効力(第三者のためにする契約)		第21回 請負		
第7回 契約の解除		第22回 委任		
第8回 贈与		第23回 寄託		
第9回 売買の成立		第24回 組合		
第10回 売買の効力		第25回 事務管理		
第11回 特殊の売買		第26回 不当利得(給付利得)		
第12回 買戻		第27回 不当利得(非給付利得)		
第13回 消費貸借		第28回 一般の不法行為		
第14回 使用貸借		第29回 特殊の不法行為		
第15回 前期試験		第30回 後期試験		
テキスト	柳沢秀吉・堀田康司編著『債権法各論』(嵯峨野書院)			
参考文献				
単位認定の方法	試験と出席状況等で評価			
内容的に関連する科目				

科 目 名	親 族 相 続 法	科目分類	専 門 ・ 選 択	
		開 講 年 次	開 講 期 間	単 位 数
英文表記		3(法職2年)	通 年	4
(ふりがな) 氏 名	ふる た しげ あき 古 田 重 明	テ ー マ		

授 業 概 要

親族相続法は我々の家庭生活に最も深く関わりあっている日常かつ常識的な法律です。皆さんはいずれ結婚し夫婦となり親子関係が生じ、長じては扶養や相続等の問題が発生します。例外的に離婚もあり、また養子とか認知等々個人によりいろいろなタイプの生活があります。親族相続法は論理的に割り切れない感情的側面を重視する分野でもあります。したがって感情がもつれ争いになったときの「転ばぬ先の杖」になり得べく、「知らなきヤソンソン」とならないように、予防法学として学習することも大事です。この科目は選択科目ではありますが、以上のことから多数の履修が望まれます。

授 業 計 画 前 期	後 期
第 1 回 親族相続法の史的素描	第16回 相続の意義
第 2 回 氏と戸籍	第17回 相続権とその侵害
第 3 回 家庭内のもめごと処理	第18回 相続人と相続順位
第 4 回 婚姻	第19回 相続欠格と相続人廃除
第 5 回 婚姻の無効・取消	第20回 相続財産の範囲
第 6 回 婚姻の効力	第21回 法定相続分、具体例の計算
第 7 回 婚姻の解消	第22回 特別受益者の相続分
第 8 回 内縁の保護	第23回 寄与分権利者への配慮と相続分
第 9 回 婚姻法改正案	第24回 遺産分割
第10回 親子	第25回 相続の承認・放棄
第11回 養子	第26回 相続人不存在・特別縁故者がある場合
第12回 親権	第27回 遺言の方式、効力、書き方
第13回 後見と保佐・補助	第28回 遺留分
第14回 扶養	第29回 遺留分を侵害された場合
第15回 前期試験	第30回 後期試験

テ キ ス ト	講義の初め示します。
参 考 文 献	講義の際紹介します。
単位認定の方法	テスト・出席
内容的に関連する科目	

科 目 名	商法総則商行為法	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Commercial Law	2	通年	4
(ふりがな) 氏 名	じょ 徐 しん 進	テ ー マ	企業の組織と取引に関する法的ルール	
授業概要 商法は企業に関する法である。本講義では、企業の組織に関するルール（商法総則）と企業の取引に関するルール（商行為法）を中心として、商法の基礎を学ぶ。				
授 業 計 画		前 期	後 期	
第1回 商法の概念			第16回 商行為の概観	
第2回 商法の法源・適用範囲			第17回 商行為通則①	
第3回 商人①			第18回 商行為通則②	
第4回 商人②			第19回 商行為通則③	
第5回 営業①			第20回 商行為の補助者①	
第6回 営業②			第21回 商行為の補助者②	
第7回 商号①			第22回 商事売買取引①	
第8回 商号②			第23回 商事売買取引②	
第9回 商業帳簿			第24回 運送取引①	
第10回 商業使用人①			第25回 運送取引②	
第11回 商業使用人②			第26回 倉庫取引	
第12回 代理商			第27回 場屋取引	
第13回 商業登記①			第28回 匿名組合と交互計算	
第14回 商業登記②			第29回 まとめ	
第15回 前期試験			第30回 後期試験	
テ キ ス ト				
参 考 文 献	『商法（総論・商行為）判例百選』（有斐閣）			
単 位 認 定 の 方 法	前期試験・後期試験・出席			
内 容 的 に 関 連 する 科 目	民法総則・債権法			

科目名	会社法	科目分類	専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Company Law		通年	4
(ふりがな) 氏名	みち ばた ただ よし 道 端 忠 孝	テーマ	国際競争に勝つ株式会社	
授業概要 <p>会社法は、現代社会においてとても大きな役割を果たしていますが、それは、会社法の対象である会社が大きな役割を担っていることによるものです。わが国には、世界有数の企業がいくつも存しますが、そのほとんどが株式会社形態です。しかし、その株式会社を規律する法規制は複雑です。現在、株式会社は、大会社と非大会社に区分されていますが、大会社などには特別取締役会の特例や委員会設置会社の特例などがあります。これらの特例は、わが国の企業が国際競争に勝つためといっても過言ではないでしょう。</p> <p>本講では、特に株式会社のしくみや種々の制度を明らかにすることとしたい。</p>				
授業計画 前期		後期		
第1回	会社と会社法	第16回	取締役の会社に対する責任	
第2回	会社の意義と能力	第17回	取締役の第三者に対する責任	
第3回	会社の種類と株式会社の特徴	第18回	監査役と監査役会	
第4回	株式会社の設立手続	第19回	会社の会計	
第5回	設立手続関与者の責任	第20回	新株発行①	
第6回	株主の地位と権利・義務	第21回	新株発行②	
第7回	株券と株券の喪失	第22回	新株予約権	
第8回	株式の譲渡と制限	第23回	社債	
第9回	株式会社の機関（委員会設置会社）	第24回	親会社の創設と運営	
第10回	株主総会の機能と権限	第25回	会社の合併	
第11回	株主総会の手続と決議の瑕疵	第26回	営業譲渡と会社分割	
第12回	代表取締役と表見代表取締役	第27回	会社の組織変更・解散・清算	
第13回	取締役（会）と取締役の専横行為	第28回	特例有限会社	
第14回	取締役の義務	第29回	コンプライアンス	
第15回	前期試験	第30回	後期試験	
テキスト	末永敏和他、『テキストブック会社法』（中央経済社）			
参考文献	講義時に指示する。			
単位認定の方法	前期・後期試験（80%）、出席率・授業態度等（20%）			
内容的に関連する科目	商法総則・商行為法			

科 目 名	手形小切手法	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		2	通年	4
(ふりがな) 氏 名	みち 道 はた 端 ただ 忠 よし 孝	テ ー マ	約束手形、為替手形、小切手の役割	
授業概要 <p>手形法及び小切手法は、現代の企業取引上不可欠の手形及び小切手を規律している。小切手は、現金の授受に伴う紛失や盗難等の危険並びに煩雑さや不便を克服するために、銀行に支払資金を準備しておいてその資金から支払いをしてもらうために振り出されるもので、専ら短期の支払用具として用いられる。これに対して、手形は、取引代金の支払いを数ヵ月後に繰り延べてもらうために振り出されたり、銀行が融資する際に借用証書の代わりに振り出されたり、単に信用を供与するために振り出されたりするほか、取引代金の取立や送金のために振り出させたりする。</p> <p>本講では、この手形・小切手制度を法的に明らかにするとともに、その法的諸問題についてもふれてみたい。</p>				
授 業 計 画		前 期	後 期	
第1回	手形・小切手とは	第16回	手形の変造	
第2回	手形・小切手の経済的機能	第17回	約束手形の振出	
第3回	手形・小切手の法的異同	第18回	振出人と受取人の関係	
第4回	手形・小切手の法源	第19回	手形要件	
第5回	手形・小切手と銀行取引	第20回	白地手形①	
第6回	有価証券としての手形・小切手①	第21回	白地手形②	
第7回	有価証券としての手形・小切手②	第22回	裏書の意義・種類	
第8回	手形行為の意義と特性	第23回	譲渡裏書①	
第9回	手形作成行為	第24回	譲渡裏書②	
第10回	手形交付行為	第25回	その他の裏書・保証	
第11回	手形・小切手と意思表示	第26回	支払・遡求	
第12回	代理方式の手形行為	第27回	手形の権利の消滅	
第13回	代行方式の手形行為	第28回	為替手形の特徴	
第14回	手形の偽造	第29回	小切手の特徴	
第15回	前期試験	第30回	後期試験	
テ キ ス ト	道端忠孝『手形小切手法読本』（尚学社）			
参 考 文 献	講義時に指示する。			
単 位 認 定 の 方 法	前期試験・後期試験を中心に評価する。			
内 容 的 に 関 連 する 科 目	商法総則・商行為法			

科目名	保 險 法	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		3	前期	2
(ふりがな) 氏 名	みち 道 はた 端 ただ 忠 よし 孝	テ ー マ	損害保険と生命保険の役割	
授業概要 <p>保険法は、各種の保険制度を規律するものであり、現代社会において欠くことのできない重要なものである。</p> <p>保険法とは、社会生活において存する危険や不安に備える保険制度を規律するものであり、火災保険・自動車保険・傷害保険・生命保険等々、いずれも、社会生活上不可欠のものである。</p> <p>この現代生活において重要な役割を果たしている保険制度の機能・しくみ等を法的に明らかにしていきたい。</p>				
授業計画 前期				
第1回	保険の意義と機能			
第2回	保険制度のしくみ			
第3回	保険契約の特色			
第4回	損害保険の特色			
第5回	損害保険の成立			
第6回	損害保険の変動			
第7回	保険代位			
第8回	保険担保			
第9回	責任保険			
第10回	自動車保険			
第11回	生命保険の特色			
第12回	生命保険の成立・変動			
第13回	生命保険の担保・処分			
第14回	傷害保険・疾病保険			
第15回	試験			
テキスト	道端忠孝『保険のしくみ』（ナツメ社）			
参考文献	講義時に指示する。			
単位認定の方法	前期試験・後期試験（90％）・出席率、授業態度等（10％）			
内容的に関連する科目	商法総則・商行為法			

科目名	民事訴訟法	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Civil Procedural Law	3(法職2)	通年	4
(ふりがな) 氏名	ほぎ ほん さ おり 萩 原 佐 織	テーマ		

授業概要

授業は、民事事件の裁判とはどのようなものか、につき学び、かつ自分の頭で考えて頂くことを目標としています。裁判所にも、簡易・家庭・地方・高等・最高裁判所とあり、事案や訴額ならびに審級等により、管轄裁判所が異なります。また民事紛争の解決は、裁判所における通常または小額訴訟とは別に、調停や裁判外における仲裁においても図られます。そうした広い意味での民事紛争手続の流れやルールを、理論と事例との両面から、概括的に取り扱うことを予定しています。

授業計画	前期	後期
第1回	民事紛争とは？	第16回 第一審の審理⑤ (証拠の種類、証拠調手続)
第2回	裁判所の種類 (司法統計から最近の動向を読む)	第17回 第一審の審理⑥ (証拠収集と証拠保全)
第3回	合意による紛争処理 (示談、仲裁、起訴前和解、調停、あっせん)	第18回 第一審の審理⑦ (要証・不要証事実、証明責任の分配)
第4回	訴訟と非訴 (家事審判、借地非訴事件、準司法手続)	第19回 当事者の意思による訴訟の終了 (訴えの取下げ、請求放棄認諾、訴訟上の和解)
第5回	略式訴訟手続(督促手続、小額訴訟事件手形・小切手訴訟)／本人訴訟	第20回 終局判決による訴訟の終了 (判決効、既判力、執行力、形成力)
第6回	裁判管轄・上訴	第21回 請求・当事者の複数① (通常共同訴訟と必要的共同訴訟)
第7回	訴え提起①(訴えの種類、 訴状審査・送達、期日指定・呼出、訴訟係属)	第22回 請求・当事者の複数② (補助参加訴訟)
第8回	訴えの提起② * 訴状を書く (二重訴訟の禁止、実体法上の効果)	第23回 請求・当事者の複数③ (訴訟告知、訴訟承継)
第9回	講演 裁判所関係	第24回 請求・当事者の複数④ (独立当事者参加)
第10回	訴訟物、処分権主義と当事者主義 (申立事項と判決事項、一部認容判決)	第25回 講演 裁判所関係
第11回	訴訟要件 (当事者適格・訴えの利益)	第26回 要件事実の実践①
第12回	第一審の審理① (口頭弁論の準備と実施)	第27回 要件事実の実践②
第13回	第一審の審理② 審理の進行 (期日、期間、送達的方式、手続の停止と中断)	第28回 要件事実の実践③
第14回	第一審の審理③ 申立権・専門権 (当事者主義と職権主義)	第29回 人事訴訟
第15回	第一審の審理④ 釈明権・義務 (弁論主義と職権探知主義)	第30回 まとめ
テキスト	六法持参。 小林秀之『ケースで学ぶ民事訴訟法—ケーススタディ民事訴訟法・新版』(日本評論社 2006年)	
参考文献	高橋宏志『重点講義民事訴訟法(上・下)』(有斐閣 2005年・2006年) 上田徹一郎『民事訴訟法 第四版』(法学書院 2004年)	
単位認定の方法	出席、数回のレポート、試験ならびに授業における態度・発言等を勘案して総合評価	
内容的に関連する科目	民事の執行	

科目名	刑法の基礎	科目分類	専門・必修	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Criminal Law I	1	通年	4
(ふりがな) 氏名	なかむら ゆういち 中村 雄一	テーマ	犯罪の一般的成立要件を学ぶ	
授業概要 <p>刑法とは、どのような行為が犯罪とされ、それに対しどのような刑罰が科せられるかを規定した法である。刑法を対象とする学問を刑法学といい、刑法学は一般に刑法総論と刑法各論に分けられる。「刑法の基礎」は刑法総論にあたり、基本的に、すべての犯罪に共通する事項、すなわち構成要件該当性、違法性、有責性といった犯罪の一般的成立要件のほか、未遂論や共犯論が中心となる。</p> <p>受講生は、この刑法の基礎をしっかりと身につけて欲しい。</p>				
授業計画 前期		後期		
第1回 刑法を学ぶにあたり		第16回 正当防衛		
第2回 刑法とは何か／刑罰・保安処分		第17回 緊急避難		
第3回 刑法の任務／法益保護・責任主義		第18回 法令行為・正当業務行為		
第4回 罪刑法定主義／法律主義・事後法の禁止		第19回 被害者の同意・自救行為		
第5回 罪刑法定主義／類推解釈の禁止・明確性の原則		第20回 責任とは何か		
第6回 犯罪とは何か		第21回 故意		
第7回 構成要件該当性とは何か		第22回 錯誤		
第8回 行為の結果		第23回 過失		
第9回 実行行為		第24回 期待可能性・責任能力・原因において自由な行為		
第10回 作為と不作為		第25回 未遂とは何か・実行の着手		
第11回 身分犯・法人の犯罪能力		第26回 不能犯・中止犯		
第12回 因果関係		第27回 正犯とは何か		
第13回 違法とは何か		第28回 共犯とは何か		
第14回 違法性阻却事由とは何か		第29回 正犯および共犯に関する諸問題		
第15回 前期試験		第30回 後期試験		
テキスト	大越義久著／有斐閣Sシリーズ『刑法総論（第4版）』			
参考文献	前田雅英著／『最新重要判例250刑法（第5版）』			
単位認定の方法	前期試験／後期試験／出席			
内容的に関連する科目	刑法各論／刑事訴訟法／刑事政策			

科目名	刑事訴訟法	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Criminal Proced	3	通年	4
(ふりがな) 氏名	なかむら ゆういち 中村 雄一	テーマ	刑事手続の流れを学ぶ	
授業概要 <p>刑事訴訟法は、犯罪と刑罰を定めた刑法を現実の犯罪事件に適用する手続を定めた法である。刑法がどんなに適正なものであっても、刑法を実際に適用する刑事手続が誤った判例を導きやすいものであり、また不当な人権侵害を許すものであれば、刑法の理念・原則はまさに「絵に描いた餅」にもなりかねない。刑事訴訟法の使命は、不当な人権侵害を排除しつつ、しかもなお真実を発見することである。この点に留意しつつ、刑事手続の流れに沿って刑事訴訟の理念および全体像を説明する。</p>				
授業計画 前期		後期		
第1回 刑事訴訟法の意義と機能		第16回 被疑者の防御・捜査の終結		
第2回 刑事手続の概要		第17回 起訴・不起訴		
第3回 刑事訴訟法の基本的な観念		第18回 起訴状		
第4回 刑事手続への関与者／被疑者・被告人・被害者		第19回 裁判所の管轄と構成		
第5回 刑事手続への関与者／警察官・検察官		第20回 裁判員による裁判		
第6回 刑事手続への関与者／弁護士・裁判官		第21回 公判準備・公判前整理手続		
第7回 捜査の主体		第22回 公判期日		
第8回 捜査の端緒		第23回 主張と立証		
第9回 捜査の原理		第24回 訴因の変更		
第10回 任意捜査と強制捜査の区別・おとり捜査		第25回 証拠による認定		
第11回 強制捜査		第26回 証拠の資格／証拠能力・伝聞法則		
第12回 参考人および被疑者の取調べ・接見交通権		第27回 証拠の資格／自白法則・違法収集証拠排除法則		
第13回 被疑者の逮捕		第28回 証拠の価値／自由心証主義・自白補強法則		
第14回 被疑者の勾留		第29回 挙証責任と無罪推定・裁判		
第15回 前期試験		第30回 後期試験		
テキスト	上口裕ほか著／有斐閣Sシリーズ『刑事訴訟法（第4版）』			
参考文献	白取祐司著／『刑事訴訟法（第3版）』			
単位認定の方法	前期試験／後期試験／出席			
内容的に関連する科目	刑法の基礎／刑法各論			

科目名	刑事政策	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Criminal Policy	3	通年	4
(ふりがな) 氏名	なかむら ゆういち 中村 雄一	テーマ	犯罪の原因と対策を学ぶ	
授業概要 <p>私たちの暮らしている社会では日常的にさまざまな犯罪が発生している。この犯罪を防止するために、国家、地方公共団体、私的団体、一般市民などが実施するさまざまな施策、活動を刑事政策という。ただし、ここでいう犯罪は、刑法上の犯罪に限定されない。より広く、刑事未成年者や心神喪失者の行為なども含む、社会秩序にとって有害な反社会的行為が刑事政策における「犯罪」である。この犯罪を防止するための種々のシステムの内容と問題点を説明する。</p>				
授業計画 前期		後期		
第1回 刑事政策の概念		第16回 死刑		
第2回 刑事政策の担い手		第17回 自由刑(1)		
第3回 刑事政策と隣接諸科学		第18回 自由刑(2)		
第4回 刑事政策と基本原則(1)		第19回 自由刑(3)		
第5回 刑事政策と基本原則(2)		第20回 自由刑(4)		
第6回 犯罪現象と犯罪統計(1)		第21回 財産刑(1)		
第7回 犯罪現象と犯罪統計(2)		第22回 財産刑(2)		
第8回 犯罪現象の推移		第23回 保安処分		
第9回 諸外国との比較		第24回 保護処分		
第10回 犯罪の原因(1)		第25回 社会内処遇の意義と課題		
第11回 犯罪の原因(2)		第26回 仮釈放・善時性		
第12回 犯罪の原因(3)		第27回 保護観察		
第13回 犯罪の原因(4)		第28回 更生保護事業・恩赦		
第14回 刑罰の意義・機能・種類		第29回 犯罪被害者の支援		
第15回 前期試験		第30回 後期試験		
テキスト	特に指定しない			
参考文献	『平成18年版犯罪白書』			
単位認定の方法	前期試験／後期試験／出席			
内容的に関連する科目	刑法の基礎／刑法各論／刑事訴訟法			

科目名	経 済 法	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Economic Law	3	通 年	4
(ふりがな) 氏 名	みちはた ただよし くるさわ ひであき 道端 忠孝・黒澤 英明	テ ー マ	経済活動と法	

授業概要

経済大国日本の経済社会を秩序づける『経済法』というものがどういうものか、その必要性はどこにあるのか、その目的・特徴は何か、まずはこれらについて考察する。

次に、具体的に、経済憲法と称される独禁法の内容である、私的独占の禁止及び企業集中規制、カルテル（不当な取引制限）の禁止、並びに不公正な取引方法の禁止等を考察するとともに、さらに国際経済と独禁法との関係を考察する。

最後に、独禁法の運用組織及びその手続を概説するとともに、独禁法違反に対する内容等を取り上げてみたい。

授業計画 前期	後 期
第1回 経済法の意義	第16回 不公正な取引方法の態様①
第2回 経済法の背景・成立	第17回 不公正な取引方法の態様②
第3回 経済法の体系	第18回 不公正な取引方法の態様③
第4回 独占禁止法の目的	第19回 企業集中規制の概要
第5回 独占禁止法の体系等	第20回 私的独占の禁止の意義
第6回 不当な取引制限の禁止の意義	第21回 私的独占の要件①
第7回 不当な取引制限の要件	第22回 私的独占の要件②
第8回 不当な取引制限の態様	第23回 合併等の規制
第9回 談合入札の違法性	第24回 合併禁止の要件
第10回 事業者団体の規制	第25回 競争制限的株式保有規制
第11回 課徴金制度	第26回 持株会社の禁止
第12回 同調的価格上げ規制	第27回 株式保有の総量規制
第13回 不公正な取引方法の禁止の意義	第28回 金融会社の株式保有規制
第14回 不公正な取引方法の要件	第29回 企業分割制度
第15回 前期試験	第30回 後期試験

テキスト	谷原修身『独占禁止法要論』（中央経済社）
参考文献	講義時に指示する。
単位認定の方法	前期試験・後期試験（80％）・出席率・授業態度等（20％）
内容的に関連する科目	

科 目 名	国 際 関 係 史	科目分類	専 門 ・ 選 択	
		開 講 年 次	開 講 期 間	単 位 数
英文表記	History of International Society	3	通 年	4
(ふりがな) 氏 名	よし だ たく や 吉 田 拓 也	テ ー マ	近代以降の国際関係史	
授業概要 <p>この講座では、近代以降の国際関係史を講義する。おもに、ヨーロッパを出発点とする近代主権国家体制の成立からはじまり、戦間期の国際関係、戦後冷戦期およびポスト冷戦期における国際関係にとって重要な史実を説明する予定である。</p> <p>なお、この講義は、「国際政治のあゆみ（旧、政治地理学）」を履修していることを前提としている。また、次年度以降は、「世界の政治」（2008年度開講予定）を履修していることを前提にする。</p> <p>さらに、この講座の詳しい内容については、初回の講義の中でお知らせいたします。</p>				
授業計画 前期		後 期		
第1回 イントロダクション		第16回		
第2回		第17回		
第3回		第18回		
第4回		第19回		
第5回		第20回		
第6回		第21回		
第7回		第22回		
第8回		第23回		
第9回		第24回		
第10回		第25回		
第11回		第26回		
第12回		第27回		
第13回		第28回		
第14回		第29回		
第15回		第30回		
テ キ ス ト	最初の講義においてお知らせします。			
参 考 文 献	初回の講義の中でお知らせします。			
単位認定の方法	試験、出席、レポートおよび課題			
内容的に関連する科目	国際社会のあゆみ（旧「政治地理学」）、国際社会と法（旧「国際法」）、政治思想の森を歩く（旧「西洋政治思想史」）			

科 目 名	法 思 想 史	科目分類	専 門 ・ 選 択	
		開 講 年 次	開 講 期 間	単 位 数
英文表記	History of legal Thought	2	通 年	4
(ふりがな) 氏 名	わ だ ひろ のぶ 和 田 寛 伸	テ ー マ		

授業概要

法思想史を法制度史としてとらえるか法理論史としてとらえるか、あるいは法学説史としてとらえるかは識者によって様々であるが、反面、このヴァリエーションにかかわる議論（法思想史の学問的位置付け）をも取り込んだ、より広義の法思想史というものも考えられる。

そもそも思想の歴史的叙述（思想史）とは、“過去との対話”を通じて現在の自己認識の深化という点にあるが、そこで特に重要なことは各思想が展開された社会的基盤もしくはその歴史的背景の把握である。

本講義では過去の法思想の歴史的背景の把握を射程に据え、出来るだけ間口の広い法思想史の枠組みを措定し、さらに次の学年に配置されている「法哲学」の科目との積極的関連・連続を照準した性格付けでの講述を予定している。

授業計画	前 期	後 期
第1回	法思想史の予備的考察（概説）	第16回 ローマ後期の法思想
第2回	法思想史という学問の定義	第17回 中世の法思想（概説）
第3回	法思想史の学問的目的と性格	第18回 アウグスティヌスの法思想
第4回	ギリシア・ローマの法思想（概説）	第19回 スコラ哲学と法思想
第5回	ソフィストの法思想（ノモスとピュシスの対立）	第20回 トマス・アクィナスの法思想
第6回	プラトンの法思想（正義のアイデアの法思想）(1)	第21回 主意主義の法思想
第7回	プラトンの法思想（正義のアイデアの法思想）(2)	第22回 スコラ哲学の衰退
第8回	プラトンの法思想（正義のアイデアの法思想）(3)	第23回 最盛期中世法思想と近代法思想
第9回	アリストテレスの法思想（法の理性的性格）(1)	第24回 近世の法思想（概説）
第10回	アリストテレスの法思想（法の理性的性格）(2)	第25回 グロチウスの法思想
第11回	アリストテレスの法思想（法の理性的性格）(3)	第26回 ホッブスの法思想
第12回	ローマ古代の法思想	第27回 スピノザの法思想
第13回	ヘレニズムの法思想	第28回 ロックの法思想
第14回	ローマ古典時代の法思想	第29回 モンテスキュー、ルソーの法思想
第15回	前期試験	第30回 後期試験
テ キ ス ト	田中成明・竹下賢他『法思想史』（第2版）有斐閣Sシリーズ	
参 考 文 献	講義の際に紹介・指示する。	
単位認定の方法	出席・前期試験・後期試験	
内容的に関連する科目		

科目名	国政政治のあゆみ	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Introduction to International Politics	1	通年	4
(ふりがな) 氏名	よし だ たく や 吉 田 拓 也	テーマ	平和のための理論と実践	
授業概要 講座は二つの部分に分けられる。前期は国際政治の見方を検討する理論編であり、後期は具体的に個別の分野における現代国際社会が直面している問題を取り上げる説明する実践編である。詳しい内容については、初回の講義において改めて説明する。				
授業計画 前期		後期		
第1回 インTRODクシヨン		第16回		
第2回		第17回		
第3回		第18回		
第4回		第19回		
第5回		第20回		
第6回		第21回		
第7回		第22回		
第8回		第23回		
第9回		第24回		
第10回		第25回		
第11回		第26回		
第12回		第27回		
第13回		第28回		
第14回		第29回		
第15回		第30回		
テキスト	大芝亮など『平和政策』（有斐閣、2006）			
参考文献	最初の講義の中で説明します。			
単位認定の方法	試験、課題および出席			
内容的に関連する科目	国際社会の法（旧「国際法」）、国際社会の歴史（旧『国際関係史』）、政治思想の森を歩く（旧『西洋政治史』）			

科目名	やさしい旅行業管理者の受験入門	科目分類 開講年次	専門・選択	
			開講期間	単位数
英文表記	Introduction to Examination for Travel Manager	2	前期	2
(ふりがな) 氏名	ほり かわ しず お 堀 川 静 夫	テーマ	試験合格のために	
授業概要 <p>「国内旅行業務取扱管理者」の合格を目指す人々のための入門講座です。国内管理者の試験科目は(1)旅行業法令(2)各種約款(3)旅行実務の3科目、4領域で総合管理者の4科目、10領域に比べ楽に思われますが、合格率は30%前後で決してやさしいものではありません。9月の試験を目指し前期のみの開講ですが、授業では出来るだけ多くの過去問に取り組み出題の傾向をじっくりと検討していきたいと思っています。合格を目指して一緒に頑張りましょう。</p>				
授業計画 前期				
第1回	Introduction			
第2回	〃			
第3回	旅行業法令			
第4回	〃			
第5回	〃			
第6回	各種約款			
第7回	〃			
第8回	〃			
第9回	国内旅行実務			
第10回	〃			
第11回	〃			
第12回	〃			
第13回	〃			
第14回	試験問題検討			
第15回	〃			
テキスト	「まるごと覚えるポイントレッスン」(新皇出版)			
参考文献	授業中に指示する。			
単位認定の方法	出席と試験を重視する。			
内容的に関連する科目	観光関連科目			

科目名	観光行政法	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記		1	前期	2
(ふりがな) 氏名	わた なべ たけし 渡 部 毅	テーマ	観光と行政のかかわりあいについて学習します	
授業概要 <p>国や地方公共団体は、観光の振興・発展のために、さまざまな施策・事業あるいは指導・監督・取締等の活動を行っています。行政によるこれらの施策は、当然、法の規制の下に行われることになります。この講義では、行政によってなされる観光施策が、どのような法的枠組みの下に行われるのか、あるいは、行政が観光施策を立案するさいに、その過程へ住民はどのような形でかかわりあいを持つことになるのかなどについて学びます。なお、複数回のレポート課題を課します。</p>				
授業計画 前期				
第1回	ガイダンス			
第2回	観光と行政のかかわりあい			
第3回	観光に関する行政組織			
第4回	観光政策の特殊性			
第5回	観光政策の理念と目的			
第6回	規制行政手法			
第7回	規制的手法以外の手法			
第8回	実効性確保のための手法			
第9回	行政手続・住民参加			
第10回	まちづくりに関する条例			
第11回	環境保全と行政			
第12回	観光振興と行政			
第13回	国内観光に関する政策			
第14回	国際観光に関する政策			
第15回	期末試験			
テキスト	使用しない			
参考文献	必要に応じて紹介する			
単位認定の方法	期末試験・出席・レポート			
内容的に関連する科目	観光関連の諸科目			

科目名	韓国の観光事情	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Korean Tourist Conditions	1	前期	2
(ふりがな) 氏名	い 李 ちよん 廷 みん 珉	テーマ	韓国を知ろう！	
授業概要 <p>ここ近年、日本と韓国は急速に接近しあい、一方で衝突も起こしながら、しかし明らかに、これまでにない大きな転換期を迎えています。真に対等な立場で相互に向き合い、ともに歩んで行くには、どうしたらよいのか。課題は山積ですが、まずは相手を「知る」ということが大切なのは言までもありません。この授業では、韓国に生きる人々が、いったい何をどのように感じ、考え、暮らしているのかを様々な角度から、見ていきます。</p>				
授業計画		前 期	後 期	
第1回 ガイダンス			第16回	
第2回 韓国人の心			第17回	
第3回 韓国人の身体			第18回	
第4回 韓国人の愛			第19回	
第5回 韓国人の美			第20回	
第6回 韓国人の文化			第21回	
第7回 韓国人の人間関係			第22回	
第8回 韓国人の社会			第23回	
第9回 韓国人の言葉			第24回	
第10回 韓国人の宗教			第25回	
第11回 韓国人の空間			第26回	
第12回 韓国人の時間			第27回	
第13回 韓国人の他者			第28回	
第14回 聖ソウル			第29回	
第15回 韓国学のすすめ			第30回	
テキスト	小倉紀藏『心で知る、韓国』岩波書店、2005年			
参考文献	授業で提示する			
単位認定の方法	出席、課題など相互評価			
内容的に関連する科目	ハンゲルⅠ			

科 目 名	グリーンツーリズム論	科目分類	専門・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Rural Tourism	1	前期	2
(ふりがな) 氏 名	鈴木 達 郎	テ ー マ	都市・農村間交流	
授業概要 <p>最近、農業・農村活性化の方法の一つとしてグリーンツーリズムが脚光を浴びている。グリーンツーリズムはもちろん都市・農村間交流であるから、都市の市民、農村の農業者の双方が農業・農村の価値を認識するところから出発する必要がある。また、都市・農村間交流が登場する日本社会の背景も検討しておく必要がある。それらを踏まえてグリーンツーリズムのいくつかの実践例を検討し、今後の発展方向を考えてみたい。</p>				
授業計画 前期				
第1回	本講義のねらい			
第2回	農業の価値			
第3回	農村の価値			
第4回	農政の展開①ー農業基本法			
第5回	農政の展開②ー食料・農業・農村基本法			
第6回	一村一品運動			
第7回	リゾート開発			
第8回	グリーンツーリズムの目的			
第9回	グリーンツーリズムの方法			
第10回	グリーンツーリズムの実践例①ーイギリス			
第11回	グリーンツーリズムの実践例②ードイツ			
第12回	グリーンツーリズムの実践例③ー日本			
第13回	グリーンツーリズムの実践例④ー日本			
第14回	グリーンツーリズムの今後			
第15回	定期試験			
テ キ ス ト	テキストは使用しないが、講義のなかで資料を配付する。			
参 考 文 献	講義の中で紹介する。			
単位認定の方法	試験の結果に出席点を加点して評価する。			
内容的に関連する科目	観光関係科目			

科目名	中国の観光事情	科目・分類	専門科目・選択	
		開講年次	開講期間	単位数
英文表記	Sightseeing circumstances in China	1	後期	2
ふりがな 担当者名	じょ しん 徐 進	テーマ	中国へ個人旅行で行こう	
【授業概要】 中国の歴史・文化・政治・経済・社会など、さまざまな側面にふれて、現代中国を動的に観察・理解し、そのうえで中国観光事情を調査することを目標とする。				
授業計画 後期				
第1回 中国の歴史				
第2回 中国の文化				
第3回 中国の政治・経済				
第4回 中国の社会				
第5回 中国の地理				
第6回 中国の観光				
第7回 中国の観光				
第8回 中国の観光				
第9回 中国の観光				
第10回 中国の観光				
第11回 中国の観光				
第12回 中国の観光				
第13回 中国の観光				
第14回 中国人からみた日本の観光				
第15回 試験				
テキスト	資料配付			
参考文献				
単位認定の方法	試験・出席			
内容的に関連する科目				